

外科（必修）

1. 【一般目標(GIO)】

全人的外科医療の基本を修得するために、医療の社会性を考慮しながら良好な医師患者関係を築き、チーム医療・安全面に配慮した問題解決能力を身につける。
--

2. 【行動目標(SB0s)】

1 外科医療を通して保健医療制度を学ぶ
2 患者および患者家族との信頼関係を築き、適切に対応する能力を修得する
3 医療チームの中で研修医の役割を理解し、他のメンバーと協働できるようになる。
4 安全な外科医療の遂行する方法や安全管理を理解する。
5 外科医療の中でE BMを利用できるようになる。
6 外科医療の中で基本的な医療面接ができるようになる。
7 外科医療の中で基本的な身体診察法ができるようになる。
8 外科医療の中で基本的な臨床検査ができるようになる。
9 外科医療の中で基本的手技ができるようになる。
10 外科医療の中で基本的治療ができるようになる。

3. 【方略】

	【対応するSB0s】
1 保健医療に関する講義を受け、レセプト業務を行う。（講義）（実習）	1
2 患者および患者家族への病状説明に参加する。（実習）	2
3 医療チームの一員として、上級医や看護師等と協力し病棟、手術業務を行う。（実習）	3
4 安全講習会に参加し、現場でマニュアルに従い業務を行う。（講義）（実習）	4
5 UP TO DATE, DynaMed等を2次資料を使用する。（オリエンテーション時模擬練習）（自習）	5
6 基本的な医療面接を行う。（オリエンテーション時模擬練習）（研修医セミナー）（実習）	6
7 基本的な身体診察法を行う。（オリエンテーション時模擬練習）（研修医セミナー）（実習）	7
8 基本的な臨床検査を行う。（オリエンテーション時模擬練習）（実習）（研修医セミナー）	8
9 基本的手技を行う。（オリエンテーション時模擬練習）（随時模擬練習）（実習）	9
10 基本的治療を行う。（オリエンテーション時模擬練習）（実習）	10

4. 【評価】

①研修医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法	【対応するSB0s】
保険医療制度と医療安全に関する講習会参加と理解	自己・指導医・コメディカル	講習会時、随時	講習会出欠、ポートフォリオのチェックリスト	1, 4
診療態度	自己・指導医・コメディカル	研修途中（1か月経過時）及び研修修了時	口頭、書面（フィードバックシート）及びポートフォリオのチェックリスト	2, 3
文献検索と症例提示	自己・指導医	毎週	カンファランス、口頭でのフィードバック	5
診療技術	自己・指導医・コメディカル	随時、研修途中（1か月経過時）及び研修修了時	口頭、書面（フィードバックシート）及びポートフォリオのチェックリスト	6, 7, 8, 9, 10

②当該科に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの当該科への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

③指導医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの指導医への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

5. 【週間スケジュール】各科参照

6. 研修医の事前準備

外科教科書をおさらいすること

7. 【研修指導体制】

研修責任者：	各外科診療科長及び各診療グループリーダー
指 導 医：	各外科指導医
コメディカル：	各病棟コメディカル

8. 【緊急連絡先】

病棟業務マニュアル参照

呼吸器外科（第一外科）

1. 【一般目標 (GIO)】

呼吸器外科的疾患、特に腫瘍に対する診断、手術適応の判定、周術期管理、合併症の処置などに関して適切な判断を下せるために、基本的知識、態度、技術、手術手技などを習得し、手術を通して、包括的な一般外科診療を实践できる、また全身管理のできる医師の育成を目的する。

2. 【行動目標 (SB0s)】

1 医師として必要な人間性を身につけ、患者および患者家族との信頼関係を築き、適切に対応する能力を修得する
2 呼吸器外科診療に関する基本的知識を身につける
3 呼吸器外科手術手技の原理原則を理解し、患者に必要な情報提供や指導ができる
4 呼吸器疾患の診断に必要な検査を選択し、手術適応の有無の判断力を修得する
5 担当した患者の疾患について、自身で文献や情報を収集し症例報告ができる。
6 呼吸器外科に関する手術手技、周術期管理、合併症の処置を習熟する
7 一般外科臨床に必要な救急診療能力、全身管理能力を修得する
8 コメディカルスタッフと協力してチーム医療を实践できる

3. 【方略】

	【対応するSB0s】
1 呼吸器外科入院患者の担当医として、主治医である指導医とともに診療にあたる	1, 2, 3, 4, 7, 8
2 腫瘍外科カンファレンスに参加し、一般外科臨床、基礎研究や最新情報を習得する	4
3 問診、診察、検査結果の解釈、鑑別診断、担当患者の診療計画立案、治療法について修得する	4, 6, 7
4 指導医とともに新患外来・他科からの呼吸器疾患コンサルテーションに対応する	2, 6
5 呼吸器疾患診療に関する検査・手術手技（胸腔ドレーン挿入、気管支鏡検査、開胸・閉胸、救急処置など）を行う	6
6 回診・カンファレンスに参加し、発表、討論を行う	5, 8
7 学会や研究会に積極的に参加し、症例報告や研究発表を行う	2, 5

4. 【評価】

①研修医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法	【対応するSB0s】
担当した入院患者の病態の解釈、担当患者数	自己・指導医	患者退院時 研修修了時	退院サマリーのチェック ポートフォリオ	1, 2, 4
診療態度	自己・指導医・コメディカル	研修中旬 研修修了時	フィードバックシート 口頭でのフィードバック	1, 3, 8
関連手技	自己・指導医	毎週	ポートフォリオによる チェック 口頭でのフィードバック	6, 7
カンファレンスでの症例提示	自己・指導医・コメディカル	毎週	口頭でのフィードバック	2, 5, 8
学会発表・論文発表	自己・指導医	随時	学会発表・論文発表	5

②当該科に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの当該科への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

③指導医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの指導医への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

5. 【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	回診 薬剤説明会 抄読会 外来・病棟	回診 病棟 手術	回診 外来・病棟	回診 病棟 手術	回診 カンファ (腫瘍外科) 外来・病棟
午後	外来・病棟 カンファ	病棟 手術	病棟 カンファ (内科、放射線科、病理 部)	病棟 手術	外来・病棟

6. 研修医の事前準備

呼吸器外科教科書をおさらいすること

7. 【研修指導体制】

研修責任者： 永安 武
指 導 医： 山崎直哉、土谷智史、松本桂太郎、宮崎拓郎、蒲原涼太郎、畑地 豪、 計6名のスタッフが指導にあたる
コメディカル： 病棟師長、主任

8. 【緊急連絡先】

呼吸器外科病棟業務マニュアル参照

乳腺・内分泌外科（第一外科、第二外科）

1. 【一般目標 (GIO)】

乳腺・内分泌疾患に対する診断治療プロセスに関して適切な判断を下せるために、基本的知識、態度、手術手技を習得し、包括的な一般外科診療を実践できる、また全身管理のできる医師の育成を目的する
--

2. 【行動目標 (SB0s)】

1 医師として必要な人間性を身につけ、患者および患者家族との信頼関係を築き、適切に対応する能力を修得する
2 乳腺・内分泌疾患の診療に関する基本的知識を身につける
3 乳腺・内分泌外科手術手技の原理原則を理解し、患者に必要な情報提供や指導ができる
4 乳腺・内分泌疾患の診断に必要な検査を選択し、手術適応の有無の判断力を修得する
5 担当した患者の疾患について、自身で文献や情報を収集し症例報告ができる
6 乳腺・内分泌外科に関する手術手技、周術期管理、合併症の処置を習熟する
7 一般外科臨床に必要な救急診療能力、全身管理能力を修得する
8 コメディカルスタッフと協力してチーム医療を実践できる

3. 【方略（共通）】

	【対応するSB0s】
1 乳腺・内分泌外科入院患者の担当医として、主治医である指導医とともに診療にあたる	1, 2, 3, 4, 7, 8
2 腫瘍外科カンファレンスに参加し、一般外科臨床、基礎研究や最新情報を習得する	4
3 問診、診察、検査結果の解釈、鑑別診断、担当患者の診療計画立案、治療法について修得する	4, 6, 7
4 指導医とともに新患外来・他科からの乳腺・内分泌疾患コンサルテーションに対応する	2, 6
5 乳腺内分泌疾患診療に関する検査・手術手技（乳腺・甲状腺エコー、簡単な腫瘍穿刺・摘出など）を行う	6
6 回診・カンファレンスに参加し、発表、討論を行う	5, 8
7 学会や研究会に積極的に参加し、症例報告や研究発表を行う	2, 5

4. 【評価（共通）】

①研修医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法	【対応するSB0s】
担当した入院患者の病態の解釈、担当患者数	自己・指導医	患者退院時 研修修了時	退院サマリーのチェック ポートフォリオ	1, 2, 4
診療態度	自己・指導医・コメディカル	研修中旬 研修修了時	フィードバックシート 口頭でのフィードバック	1, 3, 8
関連手技	自己・指導医	毎週	ポートフォリオによる チェック 口頭でのフィードバック	6, 7
カンファレンスでの症例提示	自己・指導医・コメディカル	毎週	口頭でのフィードバック	2, 5, 8
学会発表・論文発表	自己・指導医	随時	学会発表・論文発表	5

②当該科に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの当該科への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

③指導医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの指導医への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

5. 【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	回診 薬剤説明会 抄読会 外来・病棟	回診 病棟 手術	回診 外来・病棟	回診 病棟 手術	回診 カンファ (腫瘍外科) 外来・病棟
午後	外来・病棟 カンファ	病棟 手術 カンファ (内科、耳鼻科、放射 線科合同)	病棟	病棟 手術	外来・病棟 カンファ

【週間スケジュール（第二外科）】

	月	火	水	木	金
午前	手術、病棟	術前術後カンファレンス 病棟または外来	手術、病棟	抄読会 病棟カンファランス 病棟回診または外来	手術、病棟
午後	手術、病棟	検査または外来、乳腺内 分泌カンファレンス	手術、病棟	病棟または外来	手術、病棟

6. 研修医の事前準備（共通）

乳腺・内分泌外科教科書をおさらいすること

7. 【研修指導体制（第一外科）】

研修責任者： 永安 武
指 導 医： 矢野 洋、松本 恵の計2名のスタッフが指導にあたる
コメディカル： 病棟師長、主任

【研修指導体制（第二外科）】

研修責任者： 山之内先生
指 導 医： 久芳先生、崎村先生
コメディカル： 病棟師長、主任

8. 【緊急連絡先（共通）】

乳腺・内分泌外科病棟業務マニュアル参照

消化器外科（第一外科、第二外科）

1. 【一般目標 (GIO)】

日常診療で頻繁に遭遇する外科的な病気や病態に適切に対応できるために、外科臨床医としての救急患者に対する外科的応急処置や、外科的疾患の診断・手術適応・術式選択・周術期管理・合併症の処置などに適切な判断を下せる用になる。

2. 【行動目標 (SB0s)】

1	手術治療の適応と方針の決定ができる
2	手術に必要な局所解剖の理解ができる
3	術後の療養指導(食事、歩行、排泄など) ができる
4	術後退院療養の計画ができる
5	癌に対する術前術後の補助療法についての検討ができる
6	臨床所見、切除標本の所見、病理所見の対比ができる
7	癌取り扱いに準じた手術の記載と病理組織の整理ができる
8	外科的基本手技を修得する

3. 【方略（共通）】

	【対応するSB0s】
1 入院患者の担当医として、主治医である指導医とともに診療にあたる	1, 2, 3, 4, 5, 8
2 担当患者の問診、診察、術前画像診断を行う	1, 2, 5
3 指導医とともに新患外来・他科からの外科的疾患コンサルテーションに対応する	1
4 外科的な基本手技（消毒法、開腹、閉腹や皮膚縫合など）を行う	8
5 回診・カンファレンスに参加し、発表、討論を行う	6, 7
6 学会や研究会に積極的に参加し、症例報告や研究発表を行う	7

4. 【評価】

①研修医に対する評価（共通）

項目	評価者	時期	評価方法	【対応するSB0s】
担当した入院患者の病態の解釈、担当患者数	自己・指導医	患者退院時 研修修了時	退院サマリーのチェック ポートフォリオ	1, 4, 5, 6
診療態度	自己・指導医・コメディカル	研修中旬 研修修了時	フィードバックシート 口頭でのフィードバック	3
関連手技	自己・指導医	毎週	ポートフォリオによるチェック 口頭でのフィードバック	2, 8
カンファレンスでの症例提示	自己・指導医・コメディカル	毎週	口頭でのフィードバック	1, 4, 5, 6
学会発表・論文発表	自己・指導医	随時	学会発表・論文発表	6, 7

②当該科に対する評価（共通）

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの当該科への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

③指導医に対する評価（共通）

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの指導医への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

5. 【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	回診 薬剤説明会 抄読会 外来・病棟	回診 病棟 手術	回診 外来・病棟 内視鏡検査	回診 病棟 手術	回診 カンファ (腫瘍外科) 外来・病棟
午後	外来・病棟 カンファ	病棟 手術 カンファ (内科、耳鼻科、放射線科合同)	病棟	病棟 手術	外来・病棟 カンファ

【週間スケジュール（第二外科）】

	月	火	水	木	金
午前	手術、病棟	術前術後カンファレンス 病棟	手術、病棟	抄読会 病棟カンファレンス 病棟回診	手術、病棟
午後	手術、病棟	検査 (食道カンファレンス、 胆膵カンファレンス)	手術、病棟 肝臓カンファレンス	病棟、検査	手術、病棟

6. 研修医の事前準備（第一外科）

消化器外科教科書をおさらいすること

研修医の事前準備（第二外科）

外科学教科書をおさらいすること

7. 【研修指導体制】

研修責任者： 永安 武
指 導 医： 日高重和、國崎真己、若田幸樹 計3名のスタッフが指導にあたる
コメディカル： 病棟師長、主任

【研修指導体制（第二外科）】

研修責任者： 江口 晋
指 導 医： 金高 賢悟、小林 慎一朗計2名のスタッフが指導にあたる
コメディカル： 病棟師長、主任

8. 【緊急連絡先（共通）】

消化器外科病棟業務マニュアル参照

小児外科（第一外科、第二外科）

1. 【一般目標(GIO)】

小児外科の基本的な業務を遂行できるように、小児外科診療に必要な基本的知識技術を習得し、患者・家族・そして医療スタッフから信頼され、更には客観的な自己評価ができるようになることを目指す。
--

2. 【行動目標(SB0s)】

1 小児外科疾患の基本的検査法の選択・実施ならびに結果の解釈ができる。
2 小児外科における術前・術後管理に習熟する。
3 小児外科における基本的外科治療が確実に実施できる。
4 小児科やコメディカルスタッフと協力してチーム医療を実践できる。

3. 【方略（共通）】

	【対応するSB0s】
1 入院患者の担当医として、主治医である指導医とともに診療にあたる。	1, 2, 3
2 問診、診察、術前画像診断の解釈、鑑別診断、担当患者の手術適応について修得する。	1
3 指導医とともに新患外来・他科からの外科的疾患コンサルテーションに対応する。	1, 4
4 外科的な基本手技（消毒法、開腹、閉腹や皮膚縫合など）を行う。	3
5 回診・カンファレンスに参加し、発表、討論を行う。	1, 4
6 学会や研究会に積極的に参加し、症例報告や研究発表を行う。	1

4. 【評価】

①研修医に対する評価（共通）

項目	評価者	時期	評価方法	【対応するSB0s】
患者サマリーと患者数	自己・指導医	患者退院医時又は研修終了時	退院サマリーのチェック ポートフォリオによる	1
診療態度	自己・指導医・コメディカル	研修中旬 研修終了時	フィードバックシート 口頭でのフィードバック	4
関連手技	自己・指導医	毎週	ポートフォリオによる チェック 口頭でのフィードバック	3
カンファレンスでの症例提示	自己・指導医・コメディカル	毎週	口頭でのフィードバック	1, 2, 4
学会発表・論文発表	自己・指導医	随時	学会発表・論文発表	1

②当該科に対する評価（共通）

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの当該科への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

③指導医に対する評価（共通）

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの指導医への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

5. 【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	回診 薬剤説明会 抄読会 外来・病棟	回診 病棟 手術	回診 抄読会 外来・病棟	回診 病棟 手術	回診 カンファ（腫瘍外科） 外来・病棟
午後	外来・病棟	病棟 手術 カンファ（小児科合同）	外来・病棟	病棟 手術	病棟

【週間スケジュール（第二外科）】

	月	火	水	木	金
午前	病棟、検査	術前術後カンファレンス 手術	抄読会 手術	抄読会 病棟カンファレンス 病棟回診または手術	病棟、検査
午後	病棟、検査	手術、検査	手術、病棟、検査 NICUカンファレンス	手術、検査	病棟、検査

6. 研修医の事前準備（第一外科）

小児外科教科書をおさらいすること

研修医の事前準備（第二外科）

外科学教科書をおさらいすること

7. 【研修指導体制】

研修責任者： 永安 武
指 導 医： 田浦康明 計1名のスタッフが指導にあたる
コメディカル： 病棟師長、主任

【研修指導体制（第二外科）】

研修責任者： 江口 晋
指 導 医： 高槻 光寿、小坂 太一郎他計2名のスタッフが指導にあたる
コメディカル： 病棟師長、主任

8. 【緊急連絡先（共通）】

小児外科緊急連絡網参照

整形外科

1. 【一般目標(GIO)】

一般的な診療において頻繁に関わる整形外科疾患に適切に対応できるようになるために、整形外科診療に必要な知識、技術、態度を修得するとともに、基本的な診療能力を実践できる。

2. 【行動目標(SB0s)】

1 患者、家族の要望を、身体的、心理的、社会的側面から把握する。
2 整形外科診療、リハビリテーションに関する基本的知識を身につける。
3 整形外科疾患の診断に必要な検査を選択し、適応の有無の判断力を修得する。
4 整形外科患者の適切な診療プロセスを実践する。
5 整形外科診療に関する必要な診察手技を経験し、習熟する。
6 整形外科疾患に対する手術適応、手術法の選択、簡単な手術手技について習得する。
7 リハビリテーションの原理を理解し、患者に必要な情報提供や指導ができる。
8 上級および同僚医師、他の医療従事者と適切なコミュニケーションをとり、チーム医療を身に付ける。

3. 【方略】

	【対応するSB0s】
1 整形外科入院患者の担当医として、主治医である指導医とともに診療にあたる。	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8
2 若手整形外科医向けの講義を受け、整形外科の基本的知識や最新情報を修得する。	2, 6
3 問診、診察、検査結果の解釈、鑑別診断、担当患者の診療計画立案、治療法について修得する。	1, 3, 4, 6, 7
4 指導医とともに新患外来・他科からのコンサルテーションに対応する。	3, 4, 6, 8
5 整形外科疾患に関する診察手技や検査（関節穿刺、関節エコー）を行う。	5
6 回診・カンファレンスに参加し、発表、討論を行う。	2, 6, 8
7 学会や研究会に積極的に参加し、症例報告や研究発表を行う。	2, 8

4. 【評価】

①研修医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法	【対応するSB0s】
患者サマリーと患者数	指導医 コメディカル	患者退院医時又は 研修終了時	退院サマリーのチェック ポートフォリオによる	2, 3, 6
診療態度	指導医 コメディカル	研修中旬 研修終了時	フィードバックシート 口頭でのフィードバック	1, 8
関連手技	指導医	研修中、研修終了時	フィードバックシート 口頭でのフィードバック	5, 6
カンファレンスでの症例提示	指導医 コメディカル	毎週	カンファ後フィードバック フィードバックシート	1, 2, 3, 4, 6
学会発表・論文発表	指導医	随時	学会発表・論文発表	2, 8

②当該科に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの当該科への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

③指導医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの指導医への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

5. 【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	外来・病棟	抄読会 手術	外来・病棟	早朝グループカンファレンス 手術	術前術後カンファレンス 外来・病棟
午後	病棟	手術 病棟	病棟	手術 病棟	術前術後カンファレンス 総回診

6. 研修医の事前準備

整形外科教科書をおさらいすること

7. 【研修指導体制】

研修責任者：	尾崎 誠
指 導 医：	辻本律、宮田倫明、松林昌平、安達信二、梶山史郎、木寺健一、穂積晃、田上敦士、千葉恒、津田圭一、松尾洋昭、岡崎成弘、志田崇之、野村賢太郎、山田周太の計15名のスタッフが指導にあたる
コメディカル：	病棟師長、主任

8. 【緊急連絡先】

整形外科病棟業務マニュアル参照

皮膚科・アレルギー科

1. 【一般目標(GI0)】

患者にとって満足できる皮膚科診療を提供するために、医師として全人的に患者を診療する姿勢を身につけ、皮膚科診療に必要な知識、技術を修得する
--

2. 【行動目標(SB0s)】

1 患者および患者家族との信頼関係を築き、適切に対応する能力を修得する
2 皮膚科診療、皮膚科での手術手技に関する基本的知識を身につける
3 担当患者に必要な情報提供や指導ができる
4 皮膚疾患の診断に必要な検査を選択し、適応の有無の判断力を修得する
5 皮膚科患者の適切な診療プロセスを実践する。
6 皮膚科診療に関する必要な検査、手技を経験し、習熟する
7 手術手技を経験し、習熟する
8 メディカルスタッフと協力してチーム医療を実践できる

3. 【方略】

	【対応するSB0s】
1 皮膚科・アレルギー科入院患者の担当医として、主治医である指導医とともに診療にあたる	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8
2 抄読会に参加し、皮膚科領域の最新情報について講義を受ける	2
3 指導医のもとで手術の補助を行い、縫合など簡単な手技を実践する	2, 7
4 指導医とともに新患外来・他科からの皮膚疾患コンサルテーションに対応する	4, 5, 6
5 皮膚患診療に関する手技・検査（皮膚生検、パッチテスト、プリックテスト、真菌検査、光線テスト）を行う	6
6 回診・カンファレンスに参加し、発表、討論を行う	1, 5, 8
7 学会や研究会に積極的に参加し、症例報告や研究発表を行う	2, 4

4. 【評価】

①研修医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法	【対応するSB0s】
担当した入院患者のサマリーと患者数	指導医 コメディカル	患者退院医時又は研修終了時	退院サマリーのチェック ポートフォリオ	4, 6
診療態度	自己・指導医・メディカルスタッフ	研修中旬 研修終了時	フィードバックシート 看護師からの評価表	1, 3, 8
関連手技	自己・指導医	毎週	指導医によるチェック 口頭でのフィードバック	2, 6, 7
カンファレンスでの症例提示	自己・指導医・メディカルスタッフ	毎週	口頭でのフィードバック	4, 5, 8
学会発表・論文発表	自己・指導医	随時	学会発表・論文発表	4, 8

②当該科に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの当該科への評価	研修医	研修終了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

③指導医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの指導医への評価	研修医	研修終了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

5. 【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	外来・病棟	外来・病棟	手術・外来・病棟	外来・病棟	外来・病棟
午後	カンファレンス (病理、臨床写真) 病棟回診	外来・病棟	病棟	病棟・手術 病理カンファレンス (若手向け)	病棟 臨床抄読会

6. 研修医の事前準備

皮膚科教科書をおさらいすること

7. 【研修指導体制】

研修責任者：	竹中 基
指 導 医：	原肇秀、富村沙織、鉦塚大、鉦塚さやか、小池雄太のスタッフ及び岩永聡、神尾芳幸、吉見公佑の病棟チーム長の計8名が指導にあたる
コメディカル：	病棟師長、主任

8. 【緊急連絡先】

皮膚科・アレルギー科病棟業務マニュアル参照

泌尿器科

1. 【一般目標(GIO)】

患者にとって満足できる泌尿器科診療を提供するために、泌尿器科疾患の診療に必要な知識、技術を習得するとともに、包括的な一般泌尿器科診療を実践できる。

2. 【行動目標(SB0s)】

1	泌尿器科診療に関する基本的知識を身につける
2	泌尿器科疾患の診断に必要な検査を選択し、検査の優先規準や適切な方法を選択する
3	泌尿器科患者を指導医とともに担当し、検査方法や診断技術を身につける
4	泌尿器科疾患の治療に必要な処置や手術の方法や手技を経験し、習得する
5	泌尿器科診療において必要な救急疾患に対して対応する能力あるいは全身管理を体得する
6	メディカルスタッフと協力してチーム医療を実践できる

3. 【方略】

	【対応するSB0s】
1 泌尿器科入院患者の担当医として、指導医とともに診療を担当する	1, 2, 3, 4, 5, 6
2 泌尿器科入院患者あるいは外来患者の診療に参加して、診療録を記載する	2, 3, 4
3 泌尿器科カンファレンスに積極的に参加し、対象症例に対して最良の診療ができるように心がける	2, 6
4 回診・早朝カンファレンスに参加して、対象疾患の病状の提示・把握ができるようにする	1, 2, 6
5 指導医とともに新患外来患者の初期検査・診断・治療に対応する	2, 3, 5
6 指導医とともに他科からの泌尿器科疾患のコンサルテーションに対応する	2, 4, 5
7 回診・カンファレンスに積極的に参加して、症例提示ならびに討議に参加する	2, 3, 6
8 学会や研究会に積極的に参加して、症例報告や研究発表を行う	2, 6

4. 【評価】

①研修医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法	【対応するSB0s】
担当した入院患者の疾患と患者数	指導医 メディカルスタッフ	患者退院医時又は 研修終了時	退院サマリーのチェック ポートフォリオ	1, 2
診療態度	指導医 メディカルスタッフ	患者診察終了時	口頭でのフィードバック 評価表	2, 6
関連手技	指導医	手技を施行した際	口頭でのフィードバック	3, 4, 5
カンファレンスでの症例提示	指導医	研修終了時	口頭でのフィードバック	1, 2, 6
学会発表・論文発表	指導医	研修終了時	適宜指導医による チェックを行う	2, 6

②当該科に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの当該科への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

③指導医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの指導医への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

5. 【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	手術 病棟	外来 病棟	手術 病棟	教授回診カンファレンス 外来 病棟	手術 病棟
午後	手術 病棟	手術 検査 病棟 症例検討カンファレンス	手術 病棟 血液浄化療法部カンファ レンス	外来 検査 病棟	手術 病棟 腎移植カンファレンス (隔週)

6. 研修医の事前準備

泌尿器科教科書を学習すること

7. 【研修指導体制】

研修責任者：	宮田康好
指 導 医：	大庭康司郎・木原敏晴・計屋知彰・松尾朋博の4人が指導を担当する
コメディカル：	病棟師長、主任

8. 【緊急連絡先】

泌尿器科病棟業務マニュアル参照

眼科

1. 【一般目標 (GIO)】

患者にとって満足できる眼科診療を提供するために、医師として全人的に患者を診療する姿勢を身につけ、眼科診療に必要な知識、技術を修得するとともに、包括的な一般眼科診療を実践できる

2. 【行動目標 (SB0s)】

1 患者および患者家族との信頼関係を築き、適切に対応する能力を修得する
2 眼科診療に関する基本的知識を身につける
3 眼科疾患の診断に必要な検査を選択し、適応の有無の判断力を修得する
4 眼科患者を指導医とともに担当し、適切な診療プロセスを修得実践する
5 眼科診療に関する必要な検査、手技を経験し、習熟する
6 メディカルスタッフと協力してチーム医療を実践できる

3. 【方略】

	【対応するSB0s】
1 眼科入院患者の担当医として、主治医である指導医とともに診療にあたる	1, 2, 3, 4, 5, 6
2 医局会に参加し、眼科臨床一般や最新情報についての知識を習得する	2
3 問診、診察、検査結果の解釈、鑑別診断、担当患者の診療計画立案、治療法について修得する	1, 3, 4, 5
4 指導医とともに新患外来・他科からの眼科疾患コンサルテーションに対応する	3, 4, 5
5 眼科診療に関する手技・検査を行う	5
6 カンファレンスに参加し、発表、討論を行う	3, 6
7 学会や研究会に積極的に参加し、症例報告や研究発表を行う	3

4. 【評価】

①研修医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法	【対応するSB0s】
担当した入院患者の疾患と患者数	自己・指導医	患者退院時 研修修了時	退院サマリーのチェック ポートフォリオ	1, 3, 4, 5, 6
診療態度	自己・指導医・メディカルスタッフ	研修中旬 研修修了時	フィードバックシート 口頭でのフィードバック	1, 6
関連手技	自己・指導医	毎週	ポートフォリオによる チェック 口頭でのフィードバック	5
カンファレンスでの症例提示	自己・指導医・コメディカル	毎週	口頭でのフィードバック	2, 4, 6
学会発表・論文発表	自己・指導医	随時	学会発表・論文発表	3, 4

②当該科に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの当該科への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

③指導医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの指導医への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

5. 【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	外来・病棟	外来・病棟 教授回診	外来・病棟	眼底造影検討会 外来・病棟	外来・病棟
午後	外来・病棟 術前カンファ、 眼底造影読影会、 視野カンファ	手術	外来・病棟 医局会	外来・病棟 透析カンファ 手術検討会 術前カンファ	手術

6. 研修医の事前準備

眼科教科書をおさらいすること

7. 【研修指導体制】

研修責任者： 北岡 隆
指 導 医： 隈上武志、上松聖典、築城英子、松本牧子、梶山彩乃、木下博文、草野真央、山田義久、前川有紀、原田史織、植木亮太郎
コメディカル： 病棟師長、主任

8. 【緊急連絡先】

長崎大学眼科医局の緊急連絡網参照

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

1. 【一般目標 (GIO)】

医師として全人的に患者を診療するために、耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療に必要な知識、技術を修得するとともに、姿勢を身につけ、包括的な耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療を実践できる

2. 【行動目標 (SB0s)】

1 医師として必要な人間性を身につけ、患者および患者家族との信頼関係を築き、適切に対応する能力を修得する
2 耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療に関する基本的知識を身につける
3 耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患の診断に必要な検査を選択し、適応の有無の判断力を修得する
4 耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患患者の診療において必要な最新情報を収集することができる
5 耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療に関する必要な検査、手技を経験し、習熟する
6 一般外科臨床に必要な救急診療能力、全身管理能力を修得する
7 メディカルスタッフと協力してチーム医療を実践できる

3. 【方略】

	【対応するSB0s】
1 耳鼻咽喉科・頭頸部外科入院患者の担当医として、主治医である指導医とともに診療にあたる	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
2 問診、診察、検査結果の解釈、鑑別診断、担当患者の診療計画立案、治療法について修得する	2, 3, 4
3 指導医とともに新患外来・他科からの耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患コンサルテーションに対応する	3, 5, 6
4 耳鼻咽喉科・頭頸部外科疾患診療に関する基本的な検査・手技（ファイバースコピー検査・耳垢除去・鼻出血止血など）を行う	5
5 回診・カンファレンスに参加し、発表、討論を行う	3, 4, 7
6 学会や研究会に積極的に参加し、症例報告や研究発表を行う	2, 4

4. 【評価】

項目	評価者	時期	評価方法	【対応するSB0s】
担当した入院患者の疾患と患者数	自己・指導医	患者退院時 研修修了時	退院サマリーのチェック ポートフォリオによる	1, 3, 5, 6, 7
診療態度	自己・指導医・メディカルスタッフ	研修中旬 研修修了時	フィードバックシート 口頭でのフィードバック	1, 7
関連手技	自己・指導医	毎週	ポートフォリオによる チェック 口頭でのフィードバック	5, 6
カンファレンスでの症例提示	自己・指導医・メディカルスタッフ	毎週	口頭でのフィードバック	2, 3, 4
学会発表・論文発表	自己・指導医	随時	学会発表・論文発表	2, 4

②当該科に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの当該科への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

③指導医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの指導医への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

5. 【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	外来・病棟 腫瘍カンファ	耳カンファ 外来・病棟	鼻・腫瘍カンファ 手術	病棟回診 手術	手術症例カンファ 手術・外来
午後	病棟 放射線カンファ	症例カンファ 教授回診 医局会	手術 病棟	手術 病棟	病棟

6. 研修医の事前準備

新耳鼻咽喉科学（南山堂）を読み、予習しておくこと

7. 【研修指導体制】

研修責任者：	高橋 晴雄
指 導 医：	高橋 晴雄、金子 賢一、陣内 進也、藤山 大祐、木原 千春、原 稔、北岡 杏子、坂口 功一、渡邊 毅、 以上計9名のスタッフが指導にあたる。
コメディカル：	病棟師長、主任

8. 【緊急連絡先】

耳鼻咽喉科科病棟業務マニュアル参照

脳神経外科

1. 【一般目標(GI0)】

脳神経外科で取り扱う基本的疾患の病態と治療方法を理解するために、初期救急医療における頭痛、めまい、失神、意識障害、けいれん発作の病態を鑑別できる。さらに、脳血管障害、頭部外傷等の脳外科特有疾患に対し脳神経外科的診察、応急処置ができ、手術の適応を判断できるようになる。

2. 【行動目標(SB0s)】

1 医師として必要な人間性を身につけ、患者、家族の要望を、身体的、心理的、社会的側面から把握し、適切に対応する能力を修得する
2 脳神経外科診療に関する基本的知識を身につける
3 脳神経外科疾患の診断に必要な検査を選択し、適応の有無の判断力を修得する
4 脳神経外科疾患患者の診療において必要な最新情報を収集することができる
5 脳神経外科診療に関する必要な診察手技を経験し、習熟する
6 脳神経外科疾患に対する手術適応、手術法の選択、手術手技について修得する
7 上級および同僚医師、他の医療従事者と適切なコミュニケーションをとり、チーム医療を身に付ける
8 医療評価のできる適切なカルテ記載、サマリー記載を行う

3. 【方略】

	【対応するSB0s】
1 脳神経外科入院患者の担当医として、主治医である指導医とともに診療にあたる	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8
2 若手脳神経外科医向けの講義を受け、脳神経外科の基本的知識や最新情報を修得する	2
3 問診、診察、検査結果の解釈、鑑別診断、担当患者の診療計画立案、治療法について修得する	2, 3
4 指導医とともに新患外来・他科からのコンサルテーションに対応する	3, 5
5 脳神経外科疾患に関する診察手技や検査(腰椎穿刺)を行う	3, 5
6 回診・カンファレンスに参加し、発表、討論を行う	2, 3, 7, 8
7 学会や研究会に積極的に参加し、症例報告や研究発表を行う	2, 4

4. 【評価】

①研修医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法	【対応するSB0s】
担当した入院患者の疾患と患者数	指導医 コメディカル	患者退院医時又は研修終了時	退院サマリーのチェック ポートフォリオによる	3, 4, 6, 8
診療態度	指導医 コメディカル	研修中旬 研修終了時	フィードバックシート 評価表 口頭でのフィードバック	1, 7
関連手技	指導医	手技施行後 研修終了時	口頭でのフィードバック フィードバックシート	5
カンファレンスでの症例提示	指導医 コメディカル	毎週	フィードバックシート 口頭でのフィードバック	3, 7
学会発表・論文発表	指導医	随時	学会発表・論文発表	2, 3, 4

②当該科に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの当該科への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

③指導医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの指導医への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

5. 【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	脳卒中入院カンファ 手術 病棟	脳卒中入院カンファ 抄読会 全体回診 外来	脳卒中入院カンファ 手術 病棟	脳卒中入院カンファ 抄読会 全体回診 外来	脳卒中入院カンファ 手術 病棟
午後	手術 病棟	病棟 フィルムカンファランス	手術 病棟	病棟 フィルムカンファランス	手術 病棟

6. 研修医の事前準備

脳神経外科教科書をおさらいすること

7. 【研修指導体制】

研修責任者： 松尾孝之
指 導 医： 案田岳夫、角田圭司、鎌田健作、出雲剛、堀江信貴、吉田光一、氏福健太の計7名のスタッフが指導にあたる
コメディカル： 病棟師長、主任

8. 【緊急連絡先】

脳神経外科緊急連絡網参照

形成外科

1. 【一般目標 (GIO)】

患者にとって満足できる形成外科診療を提供するために、形成外科領域の診療に必要な知識、技術を修得するとともに、熱傷、外傷などの救急処置や創傷処置を実践できる

2. 【行動目標 (SB0s)】

1 患者および患者家族と信頼関係を築き、医師としての必要な人間性を身につける
2 形成外科領域の診療に関する基本的知識を身につける
3 形成外科入院患者を担当し、適切な診療プロセスを修得実践する
4 救急外傷患者の初期治療を修得実践する
5 創傷により適切な薬剤、創傷被覆材を選択し創傷管理を修得実践する
6 皮膚あるいは血管縫合の訓練を行い、皮膚縫合を実践習熟する
7 形成外科領域の画像診断を修得する
8 コメディカルスタッフと協力してチーム医療を実践できる

3. 【方略】

	【対応するSB0s】
1 形成外科入院患者を主治医あるいは指導医とともに診療にあたる	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8
2 形成外科外来患者の予診をとり、指導医とともに治療計画をたてる	1, 2, 4
3 術前患者の画像などの検査結果より指導医とともに手術方法を検討する	3, 7
4 救急患者を指導医とともに診察し初期治療を行う	4
5 回診・カンファレンスに参加し、発表、討論を行う	2, 3, 8
6 縫合方法の練習を指導医指導のもとで行う	6
7 学会や研究会に参加し、症例報告や研究発表を行う	3, 7

4. 【評価】

①研修医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法	【対応するSB0s】
担当した入院患者の疾患と患者数	自己・指導医	患者退院医時あるいは研修修了時	退院サマリーのチェック ポートフォリオによる	2, 3, 4
診療態度	自己・指導医 コメディカル	研修中旬 研修修了時	フィードバックシート	1, 8
関連手技	自己・指導医	毎週	口頭でのフィードバック ポートフォリオによる チェック	5, 6
カンファレンスでの症例提示	自己・指導医	毎週	口頭でのフィードバック	2, 3, 8
学会発表・論文発表	自己・指導医	随時	学会発表・論文発表	3, 7

②当該科に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの当該科への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

③指導医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの指導医への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

5. 【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	手術 病棟	外来	手術 病棟	外来	手術 病棟
午後	手術 病棟	術前後カンファレンス 教授回診 入院予約カンファレンス 抄読会	手術 病棟	手術 病棟	手術 病棟

6. 研修医の事前準備

形成外科の教科書をおさらいすること

7. 【研修指導体制】

研修責任者： 田中 克己
指 導 医： 矢野 浩規、吉本 浩、大石 正雄、今村 禎伸、岩尾 敦彦の計5名のスタッフが指導にあたる
コメディカル： 病棟師長、主任

8. 【緊急連絡先】

形成外科科病棟業務マニュアル参照

心臓血管外科

1. 【一般目標 (GIO)】

患者にとって満足できる心臓血管外科診療を提供するために、医師として全人的に患者を診療する姿勢を身につけ、診療に必要な知識、技術を修得するとともに、包括的な心臓血管外科診療を実践できる

2. 【行動目標 (SB0s)】

1	医師として必要な人間性を身につけ、患者および患者家族との信頼関係を築き、適切に対応する能力を修得する
2	心臓血管外科診療、循環器内科診療に関する基本的知識を身につける
3	人工心肺装置をはじめとし、基本的な補助循環装置の原理を理解し、患者に必要な情報提供や指導ができる
4	循環器疾患の診断に必要な検査を選択し、手術適応の有無の判断力を修得する
5	循環器疾患診療に際し、必要な情報や文献を収集することができる
6	心臓血管外科診療に関する必要な検査、麻酔法・輸血療法・手術手技を経験し、習熟する
7	心臓血管外科臨床に必要な救急診療能力、全身管理・術後管理能力を修得する
8	コメディカルスタッフと協力してチーム医療を実践できる

3. 【方略】

	【対応するSB0s】
1 心臓血管外科入院患者の担当医として、主治医である指導医とともに診療にあたる	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8
2 早朝臨床カンファレンスに参加し、外科臨床一般や最新情報について講義を受ける	2, 4
3 問診、診察、検査結果の解釈、鑑別診断、担当患者の診療計画立案、治療法について修得する	2, 4, 6, 7
4 指導医とともに新患外来・他科からの心臓血管疾患コンサルテーションに対応する	2, 4, 6, 7
5 心臓血管外科手術に参加し、基本的術式について習熟する	6
6 心臓手術術後管理を自ら担当し、必要な薬剤使用法や輸血療法・麻酔法を十分理解し、術後管理を習得する	7
7 学会や研究会に積極的に参加し、症例報告や研究発表を行う	2, 4, 5

4. 【評価】

①研修医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法	【対応するSB0s】
担当した入院患者の疾患と患者数	自己・指導医	患者退院時 研修修了時	退院サマリーのチェック	2, 4, 5
診療態度	自己・指導医・コメディカル	研修中旬 研修修了時	フィードバックシート	1, 3
関連手技	自己・指導医	毎日	口頭でのフィードバック ポートフォリオ	6, 7
カンファレンスでの症例提示	自己・指導医・コメディカル	毎週	口頭でのフィードバック	2, 4, 8
学会発表・論文発表	自己・指導医	随時	学会発表・論文発表	2, 4, 5

②当該科に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの当該科への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

③指導医に対する評価

項目	評価者	時期	評価方法
研修医からの指導医への評価	研修医	研修修了時	医療開発センターの診療科への評価表で行う

5. 【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金
午前	早朝カンファレンス 外来・病棟	早朝カンファレンス 心臓手術・病棟	抄読会 早朝カンファレンス 病棟カンファレンス 外来・病棟	早朝カンファレンス 心臓手術・病棟	早朝カンファレンス 心臓手術
午後	血管手術・病棟	心臓手術・病棟	血管手術・病棟	心臓手術・病棟	術前カンファレンス

6. 研修医の事前準備

心臓血管外科教科書をおさらいすること

7. 【研修指導体制】

研修責任者： 江石 清行
指 導 医： 指導医一覧表参照
コメディカル： 病棟師長、副師長

8. 【緊急連絡先】

心臓血管外科緊急連絡網参照
